

# 同窓の輪を広げよう

## 校友会山桜会



校友会 山桜会 会長 川原 俊明

### はじめに

御堂筋のイチヨウの木が、銀杏の実を路上に散りばめています。葉を黄色く染めて、今年1年の締めくくりに向かおうとしています。

学院では、今年、茨木・大手前両中高創立60周年記念の年でした。これを機会に、両中高の関係を見直す議論が深まったことは、学院の将来にとって、とても大切なことだと認識しています。

追手門学院の卒業生組織である校友会山桜会にとっては、各人の卒業校が、小学校だけであろうと、茨木の中高、大手前の中高、いずれであっても、みんな同じ同窓であり、仲間であることに変わりはありません。

校友会山桜会では、以前から、茨木・大手前の卒業生同士の緊密な関係が築かれています。そして、一体としての同窓活動をしています。今年の記念事業の成果は、現役生徒間、教職員間においても、さらに両中高の交流を深めていくことの必要性を痛感できたのではないのでしょうか。

### 両中高創立60周年記念の集い

10月3日開催の「記念の集い」。

学院と校友会山桜会との共催とさせていただきます。お集まりいただいた多くの先生方、卒業生、PTAのみなさん。大阪城を窓越しに眺めながらの懇親は、時の経つのを忘れるくらいでした。

会場は、新築の大手前中学校舎6階の大阪城スクエア。ホテル並みの施設を誇る会場を使用させていただいたため、卒業生の多くは、学院の発展と、歴史の移り変わりを実感されたことと思います。

6月に、大阪市立中央体育館で開催された「合同フェスタ」。

両中高の生徒が2000人近くも一堂に会し、合同で体育祭を楽しんだのは、まさに60年の歴史の中でも、最初の出来事です。その意味でも、今年は、学院にとって歴史的な年と認識しています。

私は、両中高の人事交流、生徒間交流をさらに深めることによって、両校が一つの大きな力となり、追手門学院を牽引する中高になって欲しいと思っています。

### 楽しい山桜会

学院の運営について、卒業生の立場から関わりを持ち、建設的な意見を提言するのも卒業生の役割だと思います。

山桜会主催の「将来を考える日」。土畑純子渉外交流委員長のもとで例年実施しています。卒業生から中高の現役生徒に対するメッセージ講演であり、先輩としての大切な責務の一つでしょう。

同時に、校友会山桜会は、楽しい同窓の集まりでなければなりません。

6月の山桜会総会。香山恭慶総会実行委員長が、頑張りました。今年は、40歳同窓会を併催。40歳世代の多くの卒業生の参加を

お願いしました。社会で、エネルギーに活躍する世代が、総会を盛り上げてくださいました。この方針は、次年度も、受け継がれることになりました。

今年の山桜会チャリティゴルフコンペ。前田要之助会員交流委員長が仕切ってくれました。例年120名近く参加していただいている大ゴルフコンペです。学院の役員さん、卒業生、PTAのみなさんに参加していただきました。毎年の楽しいゴルフコンペは、山桜会名物の一つになっています。

各校の文化祭・スポーツ大会などで、出店するイカ焼きコーナー。この行事も、各校PTAから、完全に認知されるに至りました。イカ焼きの提供により、山桜会と、PTA・生徒さんとの交流が深まっています。

私たちは、開かれた山桜会の実践として、多くの楽しい行事をみんなで企画し、同窓の輪をさらに広げていきたいと思えます。

### 卒業生が、学院になすべきこと

いま、学院は、少子化時代という社会の荒波にもまれていきます。

しかも、公立校を優先させようとする大阪府政のもとで、追手門学院も、私学の一つとして、存亡をかけた競争を強いられています。この際、母校追手門学院も、伝統に頼るだけでなく、教育機関としてのあるべき姿を見いだしていく必要があります。

私たち卒業生は、今、何をなすべきか。

世間からの学院評価は、ひとえに卒業生の活躍にかかっています。私たち卒業生は、母校に誇りを持ち、社会での活躍の成果を母校に還元すべきでしょう。

120年の歴史をもつ学院の人脈は、大きな財産です。しかも、追手門学院の校風から生み出された家庭的雰囲気の中で、強固なきずなを持つ卒業生が、その子弟を母校に預け、同時に、大学卒業生の就職を支援する、ということが、母校への恩返しにつながるのではないのでしょうか。

卒業は、母校との離別ではありません。むしろ、母校を基盤とした新たな出発なのです。

私学追手門学院の卒業生は、学院への関わりをさらに強めていただきたい、と思えます。

### 新年会へのお誘い

年が明けると、恒例の新年会。これによって、山桜会行事が幕を開けます。

今回は、池田賢八郎新年会実行委員長に期待しています。平成23年1月22日(土)リーガロイヤルホテルでの開催です。

例年、数百人という多数の追手門ファミリーに集っていただいております。

みなさんも、ぜひご参加ください。お待ちしております。